

鮮やかな紅葉に染まり秋を堪能 「高森山で紅葉を見よう会」開催

「高蔵寺どんぐりs」主催の「高森山の紅葉を見よう会」が11月28日、高森山公園であった。晴天に恵まれ、春の「ツツジを見よう会」の31人を上回る45人が参加。4グループに分かれ、ガイドに導かれ散策路を巡りながら黄や朱に染まる高森山の秋を堪能した。

この日は、受付開始の9時半前から参加者が集まり、開始予定の10時前に10人ほどの第一陣が出発。コロナ対策で事前にマスクと手にアルコール消毒をお願いした。植物に詳しいガイド役の会員が樹種などを説明しながら歩く。鮮やかに黄色く染まったタカノツメやコナラ、フモトミズナラ。黄金色のグラデーションのなかで



ガマズミの赤い葉が目立つ。タカノツメの葉のカルメラのような甘い香りをかいてみる。

麓のグラウンドに戻った後は、どんぐりに楊枝を刺したコマで遊んだり、ステンドリーフ作りを楽しんだりした。ステンドリーフは、丸や四角の穴が開いた黒い紙に、参加者に途中で集めてもらった落ち葉をセロテープで張り付ける。日にかざしてみると、黄色や朱色の葉が鮮やかに輝いて見える。子供たちは、目を輝かしながらどんぐりゴマを回していた。参加者からは「コロナ禍で憂鬱だったけど、今日は子供が喜んでよかった」「春の『ツツジを見よう会』にもぜひ参加したい」。中には「50年間、ニュータウンで暮らしているが、初めて高森山に登った」という人もおり、イベントを実施した成果を感じた。

今回は、大和ハウスグループ様のご厚意で、会場近くの物流センターの駐車場をお借りでき、駐車をめぐる混乱はなかった。また、春日井市と高蔵寺まちづくり株式会社様の後援が得られ、チラシの置き場所など大いに助かった。今後も協働関係を強化する必要を再確認した。会場では、「魅力ある高森山公園をつくる会」の会員ら14人が、ガイド、受付、駐車場整理などに当たりイベントを支えた。 (明賀 雄二)

役員会から

●新型コロナ禍で飲食業界、旅行業界、エンターテインメント業界などが大打撃を受けているが、市民団体も大きな痛手を受けた。当会も活動の柱である「どんぐりsカフェ」が開催できない。来春には再開したいと考えているが、どうなることやら。●「生き生き楽農会」では、恒例の「芋煮会」が初の中止となった。春秋の懇親会も流れた。野菜作りの情報交換や植え付け指南など欠かせない会合だ。さらにイノシシ被害が追い打ちをかける。

●この中で、「魅力ある高森山公園をつくる会」が、春の「ツツジを見よう会」、秋の「紅葉を見よう会」を開催、参加者から好評を得たのが救いだった。順調に行けば、コロナのワクチン接種が来年前半にも行われそうだが、それまでは、感染を避けるために最大限の注意を払って生活しよう。一日も早く、正常な社会生活が戻ることを期待しつつ。

「生き生き楽農会」この一年 イノシシ防衛策に苦心 若手新会員加入で活気

今年は、夏野菜作りを始める3月頃から新型コロナウイルスの感染が一気に広がったが、畑作業には影響はなかった。自然豊かな玉野では、三密になることもなく、マスクも着けずに精が出せた。ただ、恒例の懇親会や芋煮会が開けず、会員の交流が少なくなり、団体としてのまとまりに欠けたのが残念であった。

そんな中、新たな会員として若手女性2人がくだもの畑に、川端畑にも2人のシニア会員が入り、活気がでてきた。やはり、コロナ禍の閉塞感の中、自然に親しめる野菜作り等は、どこでも人気が出ているようだ。今季の野菜の出来栄は、総じてよかった。多少の個人差はある

私の朝・昼・晩

そんな近頃の私

越後の山の端を駆けずり回り、雪割草、トリアシショウマなどと親しんで過ごした幼少期。俸給生活を経て16年間続けた軽トラ稼業も高齢に伴い1年前に終止符を打った。勤め人の息子夫婦に、育ち盛りの高校3年生の孫2人、家内がいささか体調不安定で病院のお世話になりつつ、今の時代にちょっと珍しい6人家族。

新型コロナで世の中の歯車が大きな軋み音を立てている昨今ではあるが、働けるうちは精を出して働こうと、我は老体に鞭を入れている。今になっても働ける健康体に感謝しつつ日々生活している次第。

高森山でニホンリスと出会えた事で幼少期の山野・里山で目にしていた頃の眠っていた体験が今、目を覚ました。食痕のエビフライを見つけた時の驚きはまさかマサカの出来事。歳月が経ち、今では素晴らしい多くの方々と出会いリスや自然環境を共にして、地域の人々が集える公園づくりのお手伝いが出来たらこちよ。そんな近頃の私です。

(采女 秀世)



が、ソラマメは例年になくよく実り、大根、小松菜等の葉物も日当たりがよかったせいかな順調である。

悩んだのは、イノシシによる被害である。9月より何回も侵入され、サツマイモを作った人は、金柵も跳び越えられ、ひとかけらの残骸もなく全滅、里芋も一部食われた。それより困ったのは、ミミズが好きで何回畝を作ってもひっくり返され、植えた苗を踏みつぶすのには閉口した。防護用にネットを周囲に巡らした(写真)。

だが、下から潜り込む力はすさまじい。多くの会員が知恵を出しあい、土に垂れたネットに近くから長い竹竿を切出し押さえたり、美容院からもらった人髪や太陽光充電で夜に自動発光するライトの設置等でやっと収めた。侵入防止には本当に苦労したが、何よりもノウハウを修得し、来期に活かせることが大きい。本当に悲喜こもごものシーズンであった。(堀内 泰)

すまい困りごと無料相談

●電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956(長谷川)
面接相談会日時; 12月19日(土)、1月16日(土)
(ともに13:30~15:30)
会場; 東部ほっとステーション
(サンマルシェ南館1階)

ハート・ほっと・ルーム

日時; 12月27日(日)、1月24日(日)
(ともに13:30~15:30)
会場; 東部ほっとステーション
参加費; 無料
連絡先; ☎090-6330-4393(浪川)